

7/20. 朝日

自民党の茂木敏充幹事長は19日の定例記者会見で、野党が安倍晋三元首相の国葬を行う政府の方針を批判していることに対し、疑問を呈した。「国民から国葬にすることについて、いかがなものかといふ指摘があると認識している」と述べた。

立憲民主党は、国葬を開く基準や予算のあり方をめぐり、与党に国会での開会中審査を求める考えを示している。茂木氏は国葬をめぐる国会審議について会見で問われ、「野党の主張は国政の声や認識とはかなりずれているのではないか」と指摘した。

また、自民党本部に設置された献花・記帳台への参列者は11～15日の5日間で1万8千人にのぼり、100以上の国や地域の大便りも訪れたと説明。政府が内閣府設置法に基づき、閣議決定を根拠

として「国葬儀」を実施するのとは法的にも問題ないとした。

一方、立憲の泉健太代表は19日の党の会合で「政府の説明は不十分な点が多い。国民からは数多くの懸念の声も上がっている」と語り、改めて閉会中審査を求める考え方を示した。泉氏は「無宗教であることが前提だという声も上がっている。1人の政治家の葬儀に、じつまで国が経費をかけるのか注目が集まっている」などと指摘した。

国民民主党の玉木雄一郎代表は19日の会見で「一定程度、公費を使って対応する」とは理解する」としたうえで「反対する国民もあることはよく理解できる。政府はどういった基準で国葬にするのか、国民に丁寧に説明する」とが必要だ」と語った。

(土地一姫)